

生徒から聞かれたとしても、「今、被差別部落なんてないよ」という

「誰が『同和地区の人』なのか、誰も説明できない」

府教委

民主主義と人権を守る府民連合(民権連) 谷口正暁委員長は2015年1月21日、大阪府教育委員会と交渉を行いました。やりとりの中で府教委が回答できなかった問題については改めて話し合いの場をもつことになりました。

民権連「部落」「被差別部落」「同和地区」などの言葉を使わずに
府教委 教科書の記述を踏まえて指導

民権連は「部落」「被差別部落」「同和地区」などの言葉を用いた指導をしないように要求しました。府教委は、「教科書の記述を踏まえて指導」と回答しました。これに関連して、次のようなやりとりが行われました。

○民権連 中学校教科書に「部落差別とは被差別部落の出身者に対する差別のことで、同和問題ともよばれます。」と書かれている。生徒から「被差別部落は今もあるのですか」「どこですか」と聞かれたら、先生はどう答えるのか。

□府教委 生徒から聞かれたとしても、そんな、今、被差別部落なんてないよという言い方になります。

○民権連 ないよ、といますね。
□府教委 被差別部落どこやと聞かれたら答えないです。かつて差別されたところはあるかもしれませんが、今はそんなことないよという言い方になります。

民権連 部落問題で「当事者」とは誰か

府教委 かつて同和地区にお住まいでそういうことをおっしゃる人がおられますから。

大阪府教育センター発行の教材に「違いを認め」とあり、「当事者である生徒が自らの思いを語ることを学習の中心」にすると書いています。民権連は府教育センターの教材をもとに府教委の見解を質しました。

○民権連 「誰が『同和地区の人』なのか、誰も説明できないのです」(①参照)とあるのは府教委の考えか。

□府教委 「誰が『同和地区の人』なのか、誰も説明できないのです」はい。①「COMPASS4」P96(府立学校教材・指導案集 平成26年3月

日本人として何の違いもなく、「当事者」とは誰か誰も説明できないにもかかわらず、「思いを語る」ことを学習の中心にすることの誤りが鮮明になりました。

民権連 特別対策が終了したことを教えていない。教材に

府教委 「これから30年前に対策をはじめました」とある。②
「これはちよつと事実誤認ですな。」

民権連は同和行政という特別対策が続いていると誤解させるような研修や学習指導を止めよと要求。特別対策終了を記述した中学校教科書が少ないことを指摘し、対応を求めました。また大阪府教育センター発行教材の見直しすら行っていない態度をきびしく批判しました。

②「COMPASS4」P43(府立学校教材・指導案集 平成23年4月